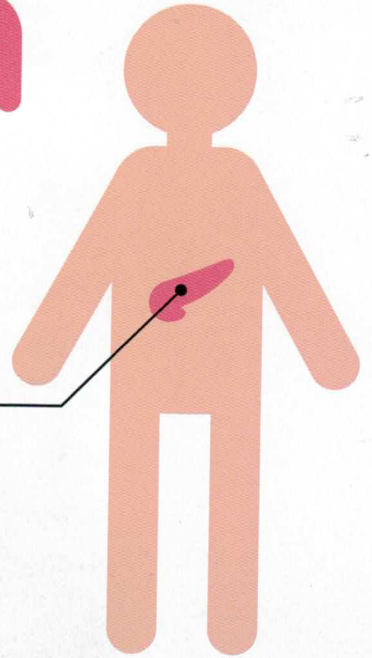


臓器のはなし



ひ ぞう
ひ ぞう
 今月は **脾臓**

抗体をつくり 血液を浄化する

切除しても、命に別状はありませんが…

あまり聞きなれない「脾臓」は、左上腹部、胃の外側から裏側にある自立たない臓器です。成人なら大きさは握りこぶしほどで、重さは90〜120g。臓内には、たくさんのリンパ球が集まってできるリンパ組織が存在します。そのリンパ球によ

て、体内に入ってきた細菌やウイルスと戦う抗体をつくってくれます。

また血液中の赤血球の寿命は3か月といわれており、古くなると酸素を運ぶことができなくなってしまう。そこで古い赤血球を壊して取り除き、血液を浄化するのも脾臓の大事な役割になります。ただ、我々はその脾臓の仕事ぶりを自覚することはありません。いわば静かに仕事をしてくれる臓器といえます。

昔は脾臓がどんな役割を持った臓器なのか、よく分かかっていませんでした。そのため脾臓が炎症を起して腫れると、周りの胃などを圧迫して痛くなるので、わりとあっさり手術で切除したのです。

実際、脾臓を取っても、すぐ命に関わる状態になるわけではありません。特に脾臓の中の腫瘍化したリンパ球が増殖するリンパ腫という病気の場合は、脾臓を取り除きます。

自分の身体の状態を知って向き合う大切さ

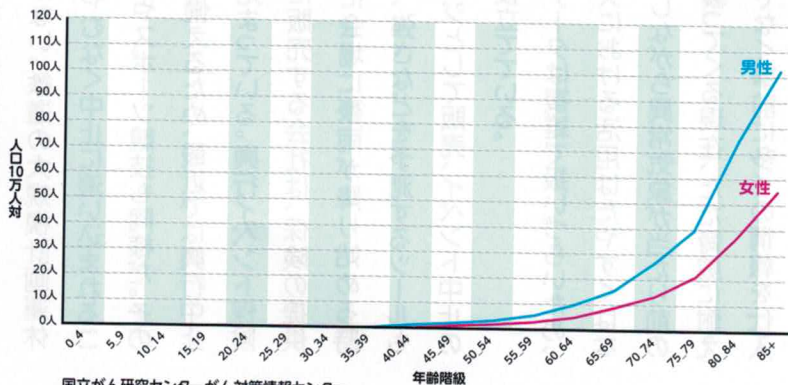
ちなみにリンパ腫は、脾臓だけでなく身体の内なるいろいろなところにリンパ節で起こりえる「血液のがん」

の一種。原因が分からない、長く続く発熱の検査の際に腫れたリンパ節を調べて、リンパ腫が発覚するケースもあるのです。

リンパ腫によって脾臓が腫れているとしても、通常の健診で発見するのは困難です。人間ドックで行う腹部エコー（腹部超音波検査）でなければ、見つけられないでしょう。健診はリンパ腫に限らず、全てのがんを早く見つけるという目的をメインとして行っているわけではなく、身体の状態を知っておく予防医学の面からの重要性が大きいと思います。

最近、一健診は受けない方がいい」という意見も出てきました。X線を利用して断層画像を撮影するCT検査で放射線被ばくによるがん発症のリスクを心配する声もあります。それでも私は、受けた方が良いと思います。まず糖尿病などの生活習慣病は自覚症状がなく、健診を行わなければなかなか見つけられません。自覚症状がないのを理由に病気を放置し続けた場合、病状が悪化するだけでなく、医療費も膨らんでしまうでしょう。早期発見は、コスト面でもメリットが大きいです。

悪性リンパ腫・年齢別死亡率 (男性・女性別)



国立がん研究センターがん対策情報センター

監修



浅海 直

あさうみ すなお

(医療法人社団 平成医会 産業医)

1993年千葉大学医学部卒。2007年12月まで松戸市立福祉医療センター東松戸病院(内科副部長)、2008年1月より板橋区役所前診療所に勤務。専門分野は糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患等の代謝・内分泌疾患および老年医学。